

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

おん ね ない

月刊 温根内 通信

2024年11月号 No.338

11月15日(金)発行



奥まで歩んだその先には

日本の東の端に位置する釧路湿原。日の入りは早く、特にこの時期になると、午後3時を過ぎればもう薄暗くなり、「1日が終わるなあ…」という感覚に浸ってしまいます。

現在、木道の一部を改修工事中ですが、今もミズゴケ湿原の先まで進むことができます。午後の枯れハンノキ林は、もの悲しくも厳かな雰囲気にも包まれます。古い木道ですので足元には注意して…

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（10/15～11/14） ☆☆☆



【ツルウメモドキの実】
ニシキギ科 蔓梅擬
蔓性の本種が見事な実をつけ、木に花が咲いたように見えます。冬の鳥たちの食糧にもなります。



【オオウバユリの実】
ユリ科 大姥百合
VCに向かう通路脇に何本も直立して目立っています。今年はエゾシカに食べられずに多くが残りました。



【ムキタケ】
キシメジ科 剥茸
ハンノキなどのいろいろな広葉樹の枯木に見られます。その名のとおり、皮が剥けるのも特徴のひとつです。



【エゾシカ】
シカ科 蝦夷鹿
薄暗がりから出てくるとドキッとすると。知らないうちにこちらの様子を窺っている時があります。



【エルタテハ】 タテハチョウ科
成虫で越冬するチョウの仲間。越冬場所を探している間に VC 館内に迷い込んでしまったようです。そっと外に逃がしてあげました。



【阿寒の山々】
11月に入って山肌を雪が覆い、青い空によく映えます。写真は雌阿寒岳で、よく見ると噴気を上げているのが見えます。

○表紙の写真 上：午後の枯れハンノキ林 下：改修工事中の木道

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（10/15～11/14）☆☆☆

季節は秋から冬へと変わりつつあり、林ではカラ類などが混群を作って行動しています。よく観察して1種が見つかると、次々に他の鳥が見つかる時もあります。また、上空にはオジロワシや時にはタンチョウが飛翔する姿が見られる日も。オオワシの目撃情報も寄せられており、これから冬の鳥たちも見つけられそうです。館内では双眼鏡を無料レンタルしています。



【オジロワシ】 留鳥・冬鳥
タカ科 尾白鷲
トビやカラスより明らかに大きく、羽を広げた姿が直線的などが特徴。成鳥は尾羽が完全に白くなります。



【コアカゲラ】 留鳥
キツツキ科 小赤啄木鳥
稀に見かけるキツツキで、国内では北海道にのみ生息します。他のカラ類などと行動を共にしていました。



【ノスリ】 留鳥
タカ科 鷲
ミズゴケ湿原の上空を探索中でした。胴体に腹巻のような縞が見えるのが特徴。

○温根内木道周辺で観察された鳥（10/15～11/14）

鳥（和名は日本鳥類目録第8版の順）	10	ノスリ	20	シジュウカラ	30	シメ
1 ヒシクイ	11	コゲラ	21	ヒバリ	31	イカル
2 オオハクチョウ	12	コアカゲラ	22	ヒヨドリ	32	ベニマシコ
3 タンチョウ	13	アカゲラ	23	ウグイス	33	カワラヒワ
4 タシギ	14	オオアカゲラ	24	エナガ	34	マヒワ
5 アオサギ	15	ヤマゲラ	25	ミソサザイ	35	カシラダカ
6 ハイイロチュウヒ	16	ハシボソガラス	26	ゴジュウカラ	36	アオジ
7 トビ	17	ハシブトガラス	27	キバシリ	37	オオジュリン
8 オオワシ	18	ヒガラ	28	ツグミ		
9 オジロワシ	19	ハシブトガラ	29	セグロセキレイ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「秋の紅葉を見に行こう」

10月20日 参加者：17名 講師：大山重治（森林インストラクター）

森と樹木の専門家である大山氏を講師に迎え、秋の色づいた葉を楽しむ散策会を行いました。大山氏からはまず、植物だけが光合成によって有機物を生産し、そこから食う・食われるという循環が起こるといふ、自然界の食物連鎖に触れていただきました。そして鶴居軌道側を歩いていくと、カエデ類やキタコブシなどが黄や赤に色づいており、これらの紅葉がどのような作用で



起こるのかを説明を受け、参加者は大きくなつていました。紅葉とは関係ないところでは、今年大発生しているマイマイガがまさに卵塊を樹幹に産んでいる瞬間を観察でき、「これはレアです！」と大山氏も興奮気味に解説されていました。湿原側から鶴居軌道側を遠目から見ると、ミズナラを中心として紅葉した丘がきれいに望め、温根内でも十分に紅葉の風景が味わえることを参加者には知ってもらえました。



○「初冬の植物を見に行こう」

11月10日 参加者：16名 講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

暖かな日差しの中、これから冬を迎える植物がどのようにして次の世代に繋いでいくのかを観察する会を行いました。湿原の植物はすっかり茶色一色になり、そんな中でもハンノキの枝先には来春に備えて花芽が既にできていました。講師の加藤氏はその花芽を手に取り、雄花、雌花とさらに今年つけた実も紹介いただきました。秋まではフランクフルトのような形をしていたガマの穂はフワフワの綿毛の種子をまとっており、これが風に乗って飛散していく様子を全員で観察しました。



鶴居軌道側の樹木もほぼ葉が枯れ落ちてはいましたが、ヤマブドウやサワシバなどの実は今もしっかり残っていました。種子を風に乗せるのか、動物に食べてもらうのか、植物ごとの散布方法の違いで実の付き方が大きく違うことがよく分かる観察会でした。散策後も講師に対して質問が多く上がり、大変盛り上がりを見せた会となりました。



☆☆☆☆ 再度、ヒグマの足跡が見つかりました ☆☆☆☆

11月2日、温根内木道上でヒグマの足跡が確認され、この日から数日間、木道を閉鎖させていただきました。現在は通行は解除されております。これでヒグマの足跡が見つかったのは今年2回目となります。繰り返しになりますが、**北海道はヒグマの生息地であることを認識し、ヒグマと遭遇しないように心がけてください。**無料で熊鈴をレンタルしておりますのでお気軽にお声がけください。



☆☆☆☆ イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆

申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪ 湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月8日（日）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺のいろいろな「かたち」にスポットを当てて散策します。防寒対策をしっかりと！

○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪ 絵具づくり体験講座

〔日時〕12月7日（土）13:00～15:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕500円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～過去の温根内通信も！～

知っていましたか？過去の温根内通信も遡って見るができます！「**温根内通信**」で検索すると、2013年からの過去約10年間の記録を見ることができます！

月刊 温根内通信 No.338

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

fFacebook： [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料